公益社団法人霧島青年会議所　第三回次年度理事会　議事録

開 催 日：平成３０年１０月３１日（水）

開会時間：２０時００分

閉会時間：２３時００分　予定

開催場所：ＪＣ会館

1. 開会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　田上　俊介　君
2. JCIクリード唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　木野田　幸平　君
3. JCIMISSION及びJCI Vision唱和　　　　　　　　　盛田　啓仁　君
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和　　　　　　　　　　　　鈴吉　美絵　君
5. 霧島JC未来ビジョン唱和　　　　　　　　　　　　　　南郷　英俊　君
6. ２０１８年度スローガン唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　同上
7. ２０１８年度理事長挨拶

理事長　前田　数馬　君

　皆さんこんばんは。本日は重野委員長が欠席という事ですが、鹿児島ブロック協議会の代表として世界会議の地で学びを得ていることかと思います。先週から青少年事業そしてハロウィンにおきまして多くの会員の皆様のご協力を頂きましてありがとうございました。青少年事業においては、３２名の子どもたちの笑顔を生み出すことができ、よかったのではないかなと思うところでございました。ハロウィンにおいては、実行委員会となり始めてでありましたが、多くの来場者を呼ぶことができたほんとに良い事業であったのではないかと思います。２０１８年度も残り２か月となりました。前回の理事会では報告書や引継ぎ等締めくくりとなってまいりました。皆さんご存知とは思いますが、この次年度段階が非常に大切です。わたくし自身も次年度の段階でもう少しやれたのではと反省するところもございました。２０１９年度は藏元次年度理事長を筆頭に万全の体制でスタートが切れるように準備をしてもらえましたらと思います。皆さんお忙しいなかで方針・事業計画を書いてきているかと思います。今が苦しいところでありますが、今やることでスムーズな事業計画に繋がっていくと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

1. ２０１９年度次年度理事長挨拶

次年度理事長　藏元　国明　君

こんばんは。まずは、本会が一週繰り越すこととなりました、わたくしの不手際であったことをお詫び申し上げたいと思います。申し訳ありませんでした。次年度が動き出して２カ月がたちました。前田理事長からもありました通り、本年度・次年度とタイトなスケジュールで大変かと思いますが、協力しながら方針等を作っていきたいと思います。わたくしも所信を書くにあたり大変でありましたが、この苦労が成長へと繋がっていくのではないかと思います。来年度を迎えるにあたり、今年度のうちに色々勉強させて頂きしっかりとスタートをきるために、皆さんと共に成長できたらと思います。本日は審議・協議多いなかで２３時終了予定とさせて頂いております。皆様のご協力とご意見を頂戴できましたらと思います。本日もよろしくお願い致します。

９．２０１９年度次年度顧問挨拶

顧問　竹下　圭一郎君

皆さんこんばんは。前のお二方からもありましたが、この次年度段階に来年一年分の力を注いでも良いぐらいかと思います。本日、理事長所信が審議となります。そこで２０１９年度の霧島JCの大枠での進むべき方向性が決まります。それにならって副理事長の方針、委員長の事業計画となっていきます。自分たちの主観で物事を進めるのであればこの会議は必要ない。なぜ、みんなで協議をするのか？理事会は議論を戦わせる場ではありません。他の理事・役員の方に共感を得なければならない。この理事会のなかで共感を得られない方針が市民の共感を得られるわけがない。すべてのもの、ことには根拠がなければいけない。なぜ根拠が必要かというと相手に共感してもらうためである。この８００文字という限られた文字数のなかで、主観ではなく根拠をもとにつくって欲しいと思います。今、大変ですが今やらないと、次年度でぶれてしまうため、担いを達成できない。自分の想いではなく霧島の人、日本の人、世界の人のためにしっかりと根拠をもって方針・計画を書いて欲しいと思います。そして、委員長の皆様は、知らない・わからないことはしっかりと確認しながらやって欲しい。わからないまま進めると委員会が困惑する。本日も、実りある会となりますことを祈念して顧問挨拶と変えさせて頂きます。

１０． 議長選出

協議事項、報告事項：専務　　前田大悟

１１．議事録作成人並びに署名人の指名

議事録作成人：橋　正貴

　　　議事録署名人：田上副理事長、盛田委員長

１２．出席者及び定足数の確認

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 藏元国明 | 〇 | 鈴吉美絵 | ○ | 木野田幸平 | ○ | 田上俊介 | ○ | 重野隆太 | × |
| 板元幸仁 | 〇 | 盛田啓仁 | ○ | 前田大悟 | 〇 | 南郷英俊 | ○ | 橋正貴 | 〇 |

　　理事１０名中９名出席により定足数を充たしていることを確認した。

重野君は公務の為、欠席となっている。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 前田数馬 | 〇 | 竹下圭一郎 | 〇 | 井上正樹 | ○ | 常盤大和 | ○ |

　　役員４名中、４名出席により定足数を充たしていることを確認した。

１３．議題並びに資料の確認

審議事項２件　　協議事項８件　　連絡・報告事項２件　先ほど終了しております。

１４．議事録承認の件

鈴吉：確認させて頂きました。誤字、脱字の修正依頼、修正の確認を行いました。

重野：数カ所、修正依頼し変更確認しております。

１５．議題

〇審議事項１：２０１９年度　理事長所信（案）の件

藏元　　：審議ですので、読ませて頂きます。

朗読

前田（大）：こちらは、事前に配信させて頂きましてご意見・ご指摘と対応させて頂いております。

常盤　　：内容については特にありませんが質問です。拡大につきまして数的目標がありましたら教えてください。

藏元　　：１５人の拡大目標。今年度７名、来年度９名の卒会が予測される中でありますので最低１５名は確保しなければならないと考えております。そしては、私は５人拡大を達成させます。

前田（大）：棄権0票　反対0票　賛成　9票で審議可とさせて頂きます。

〇審議事項２：２０１９年度組織図（案）の件

藏元　　：お目通し頂きましてご意見・ご質問ありましたらお願い致します。補足説明として、繁盛君を執行役員とさせて頂きました。本人確認のうえ、理事会等は出席義務なく声をかけさせて頂きたいと思っております。

前田　　：定足数としてカウントはするのですか？

藏元　　：総会の場であげていないのでカウントはしません。

竹下　　：役員には出席義務はないです。定足数は関係ないです。

藏元　　：それでは審議を図りたいと思います。

　　　棄権0票　反対0票　賛成　9票

　　　全会一致のうえ審議可とさせて頂きます。

〇協議事項１：２０１９年度副理事長方針　鈴吉美絵くんについて

鈴吉　　：２回目の副理事長方針になります。正副修正は青字、事前に頂いた意見は黄色マーカーにて対応しております。正副意見と対応は読んで頂けましたらと思います。

前田（大）：それでは、背景部分よりご意見ありましたら挙手にてお願い致します。

南郷　　：上から４行目に運営方針の見直しとありますが、見直しの必要性を教えてください。

鈴吉　　：理事長所信から深堀した部分でありますが円滑な運動を構築するにあたり法人格の見直しが必要と考えております。

板元　　：背景の終わり文末の「可能性を持っています」等の表現は使用可能な規定でしたでしょうか？

前田（大）：ルールの中で、使用しないではなく、安易に使用しないとしてあります。

板元　　：自分の認識不足でした。

藏元　　：今の安易に使用しないという部分ですが、しっかりとした根拠があれば良いと思います。

前田（大）：それでは2段落目の目的でご意見ありましたらお願いします。

井上　　：時間を作り取り組み活動する。の「時間を取り」と「取り組む」は意味が重複するかと思います。

鈴吉　　：同じ意味かと思いますので修正させて頂きます。

田上　　：会員全体とあるのですが、会員であれば全員組織であれば全体とした方が良いと思います。

鈴吉　　：修正後にごちゃごちゃなっておりました。再考させてください。

木野田　：「霧島JCの向かう～」の部分は手法で結果どうなるという部分が組織と思います。

鈴吉　　：組織力向上のためにという部分を正副意見で入れ替えたのですが、読んだうえで再考させて頂きます。

常盤　　：言葉として「目指す目標」の目指すと目標の意味は同じではないでしょうか？

鈴吉　　：再考させて頂きます。

前田（大）：3段落目の最後は正副見解で統一とさせて頂いております。

田上　　：書き方の「～することで」は禁止だったと思います。

鈴吉　　：読み直したうえ、「で」を「が」に修正させて頂きます。

常盤　　：地域のリーダになるは主語がないかと思いますので、読みにくいかと思いますので再考してください。

藏元　　：最後の部分は自分が急に変更したことが影響しております。すいません。

常盤　　：社会人力とはなんですか？

鈴吉　　：理事長所信にもありますが、職場や地域社会での人手不足解消のために社会人の基礎力向上が必要であるという部分で考えております。

前田　　：目的の中段、組織基盤の強化～　とありますが、鈴吉副理事長の担いの部分で機動的組織の確立するために地域の問題と向き合ったJC活動運動の推進したうえで情報共有をおこなうことが当てはまるか教えてください。

鈴吉　　：機動的な組織への進化と地域発展の貢献が総務の担いであると考え、JC運動活動は一人ではできないので情報の共有を含め委員会が率先して動くという意味で書かせて頂きました。

前田　　：担いとしてわかりにくい部分があったので質問でした。そこがしっかり答弁できるようでしたら大丈夫かと思います。

鈴吉　　：ここは理事長、執行部と話したうえで記載したいと思います。

竹下　　：盛田君に質問です。２行目の会員間の意識の差が生じていることが問題である理由はなんだと思いますか？

盛田　　：会員間の優先順位が違うのかなと思います。

竹下　　：優先順位が違ったらいけない理由がありますか？それは悪いことですか？

盛田　　：悪いことではないと思います。

竹下　　：優先順位の部分は問題定義になっていない。また問題定義としたときに３行目以降が改善していくべきなのかを記載していく必要がある。中段に「～ために」は背景の前文「そして～します」は後文に繋がらないと串刺しにならない。背景と結果を繋げるように記載してください。「～し」は手法なので背景・結果に結びつかなくても良いですが。「～ために～し、～します」との繫がりを意識して再考してください。

鈴吉　　：アドバイスをもとに再考します。

竹下　　：そもそもなぜ、これが問題定義になったのか教えてください。

鈴吉　　：優先順位がいけないことではないが、JC活動に対して会員全員で取り組むことで強固な組織に繋がると思いこの様に書かせて頂きました。

竹下　　：なので主観になっています。主観でなく根拠を。もう一度、組織の現状を考えてみてください。

藏元　　：背景のところは、我々正副が客観的に見ることが出来ていなかったところもございます。副理事長は大変ですがもう一度考えて頂けましたらと思います。

協議事項２：２０１９年度　副理事長方針　木野田幸平くん

木野田　：正副意見はお見通しください。

前田（大）：背景の部分よりご意見・ご指摘ありましたらお願い致します。

橋　　　：４行目の目的を伝えとありますが、主語がないので記載してください。

木野田　：主語を記載して参ります。

鈴吉　　：背景の２行目の青字。組織力のある団体を推進し　とありますが団体を推進するという使い方は違うかと思います。

木野田　：再考させて頂きたいと思います。

常盤　　：背景の２行目からですが、広げていかなくてはなりませんとあるのですが、なぜの部分がないのかと思います。地域の発展に貢献する人づくりに関する部分が必要と思いますので再考お願いします。

木野田　：再考させて頂きます。

前田（大）：2段目の部分でご意見なりましたら挙手にてお願いします。

南郷　　：意見になりますが、２行目の青字。何を推進していくのかを具体的に記載された方が良いかと思います。

木野田　：一緒に広報を行っていく中で、フェイスブックなどで知らない人に対して推進していくと考える中で分かりにくさもありますので修正して参ります。

田上　　：先ほどの顧問の意見で考えた時に目的の2行目。発信の強い組織となるためにとした方が適切かと思います。

木野田　：背景と繋がりを考えて修正します。

井上　　：目的の最後。率先して行動するJCをつくっていくために　の後の手法が、想いが記載されていて適切でないと思います。

木野田　：再考させて頂きます。

前田（大）：結果の１２０文字でご意見ありましたらお願いします。

鈴吉　　：結果の２行目。知識と意識を結集し　とありますが、意味がわかりません。

木野田　：拡大の中で、目的がわかってないといけないという中で知識。そして、新しく入ってきた会員を含め意識を変えていくイメージで記載しておりましたが、わかりやすい文章にしたいと思います。

井上　　：我々は　でなく我々が共感の輪を広げとした方が良いと思います。あと、誰もが夢を描ける～とありますが、急に出てきたので整理してください。

木野田　：理事長所信を今一度、落とし込んで記載したいと思います。

前田　　：背景の人口は減少傾向にありは傾向でないと思います。背景を強く書いていいのかと思います。２段目は、目的がまとまりきれてないと思います。一つにできる部分もあったりなので精査すると読みやすくなると思います。２段目の最後で、まちづくりが出来る人財育成とありますが、どの様にできるのか？もう少し明確に書いてもらえればと思います。全体的に明確にすべきところと簡潔に記載するところを精査してください。

木野田　：ご指摘の通り、２段目の精査、背景のところを再考させて頂きたいと思います。

竹下　　：もっと背景に拘ってください。上段の課題からどの様に解決していくかの繫がり。問題定義から目的への繋ぎがない。例えば「広げていかなければなりません。力強い発信力が求められる今」という様に解決方法と繋げないといけない。担いは拾えているが、なぜ率先した行動をするJCがいた方がいいのか？をもっと精査すると良いと思います。大項目は理事長所信にあるので、もっと小項目を拾ってそれぞれの背景を集約することで、もっと簡潔にできると思う。例えば「情報の精査」「共感の輪」「JCの認知」すべてが背景の問題定義に繋がってくるように考えてください。あと背景1文目は、理事長も書いているので、別な部分若しくは、もっと細かく記載してください。アドバイスです。

木野田　：小項目の精査をしたうえで、背景を構築したいと思います。

藏元　　：理事長・顧問がすべて伝えてくれているので、もっと大項目、小項目を正副含めで考えていきましょう。

前田（大）：以上で、終了したいと思います。

板元：休憩動議

セコンド：橋・南郷

藏元：休憩動議を可とする皆様

全員一致

２１；３０まで休憩を可とする理事の皆様。

全員一致

前田（大）：それでは再開させて頂きます。

協議事項３：２０１９年度副理事長方針　田上　俊介くん

田上　　：修正がわかりにくかったので赤字対応しております。よろしくお願い致します。

前田（大）：それでは背景部分より顧問の意見も参考にご意見ありましたらお願い致します。

南郷　　：質問ですが、背景の「地方」の定義を教えてください。

田上　　：都市部と地方という意味で、日本としてみた時の都市部と地方という考えです。

南郷　　：福岡などは人口が増えていると思うのですが、比較として記載しているのでしょうか？

田上　　：大都市というわけでなく、福岡も都市部という認識です。

橋　　　：前回、まちづくりに関しては「政治と経済」というご意見がある中で、下段で、もう少し政策に触れてもいいのかと個人的に思いました。

田上　　：下段とは、背景の下段でしょうか？ここは確認をしながら考えさせてください。

前田（大）：2段目でご意見、ご指摘ございましたらお願いいたします。

鈴吉　　：２段落目のまずは～の文章ですが、「し」が続くので少し読みにくいかと思います。

田上　　：適切な表現で記載したいと思います。

板元　　：最初の「郷土の発展のために」の部分は、どの様な意味でしょうか？

田上　　：今までにないもの、可能性を広げる意味で書きたかったのですが、少し伝わりにくいので表現を変更したいと思います。

木野田　：さらに　の部分。市民参画型の事業のイメージを教えてください。

田上　　：地域の発展のために事業計画を作るのですが、運営の部分などで若い世代の人に参画頂く中でより精査していってもらうというイメージで記載しました。

井上　　：「様々な団体や企業など」は助詞として「企業などが」を追加した方が良いと思います。あと、市民参画型事業は結果でなく手法であって事業をしたことで当事者意識が生まれますなどの小結果がくる方が良いと思います。

田上　　：ありがとうございます。

常盤　　：ほとんど出たところでありますが、顧問の言っている小項目について繋がってきていると思いますので前述した意見を対応頂けましたらと思います。

前田（大）：それでは、3段落目でご意見ありましたらお願いします。

常盤　　：2段落に戻るのですが、最後の部分は夢を次年度で実現しなければならない文章なので、どの様にという部分を含め見直してください。

田上　　：ここについては、もう一度見直したいと思います。

前田　　：2段落目の下から5行目の郷土を愛する心を育てるために～と次のさらに郷土愛をもった若い世代が～の文は同じなのではないかと思います。どちらも若い世代を対象とする中で、ここの違いは何ですか？

田上　　：再考させて頂きたいと思います。

前田　　：理事長所信でも若い世代を対象に地域の発展に関して事業をしたあとに郷土愛が育むのかと思いますので、順番的な部分を含め検討ください。あと、結果の「明るいイメージ」の意味を教えてください。

田上　　：イメージとしたのは、明るい未来は主観だと思うので、イメージという風にさせて頂きました。

前田　　：結果なので、イメージなのではなくもっと強く記載してもいいかと思います。

竹下　　：背景の書き方はわかりやすいかと思います。現状ですという言葉の後に発展していくにはとい繋ぎも良く文章構成はいいのですが、前文が長く解決策の後文が短いため2段落目と繫がりにくい。背景の現状・課題を2行半程度で抑えるために文章を精査し、もっと必要な言葉を入れて欲しいと思います。

田上　　：ありがとうございます。

藏元　　：中段の手法が結果に繋がるのかを考えて頂けましたらと思います。

前田（大）：以上とさせて頂きます。

協議事項４：２０１９年度予算（案）について

前田（大）：つづきまして、２０１９年度予算書（案）につきまして、2回目になります。資料の方、お目通しください。こちらの方、現時点での予算組では、公益の比率は５５％ある状況です。本日所信の方が通りましたので、具体的なところを詰めて参りたいと思います。おおかた、前回とはあまり変わりはありません。業務委託費についてご意見をいただいた分につきましては現在調査中ですので、はっきりし次第、そちら形状していく形をとらしていただきたいと思います。

竹下　　：来年度以降考えていかないといけないのは、事業費が減っていく中でそれをどのように捻出していくか、あるお金を有効に使うかではなく、ないお金をどのように捻出していくかを考えた方がよいと思います。例えば、まちづくり事業であっては、協賛や広報の仕組みを考えていくことが絶対に必要だと思います。研修事業に関しても、１０万円ではしきらないと思います。広報・研修・まちづくりに関しては、会費以外のお金をどのようにもっていけるかについては、運営方に考えていただきたいし、また副理事長と相談しながら、予算規模を上げていく方法を考えていっていただけたらと思います。

前田（大）：ありがとうございます。こちらの方も、来年度のセミナーにて、竹下顧問が言われたことを全国の会員会議所の方で言われておりますので、そこを踏まえた上で執行部と協議していきながら進めていきたいと思います。その他何かございませんか。

常盤　　：広報については、それ用の予算というのは考えていないのですか。

前田（大）：現時点においては、広報に関しては各委員会の事業を支援していくという形ではありますが、霧島青年会議所を認知していただく、目的を知っていただくということを来年度、事業としてやっていきたいと考えておりますので、そこはまた事業費として計上させていただきたいと思います。その点を、先ほど竹下顧問からいただいたご意見を参考に、進めていきたいと考えております。

鈴吉　　：例会は、来年度は公開例会ということで公益性を持たせるということではなかったでしょうか。

前田（大）：現在、久留米青年会議所さんが一般に移行したという経緯を見ながら資料を精査しておりましで、それを実際にしていいかどうかも協議をしているところです。１３ＬＯＭある中で、鹿児島青年会議所さんが例会を公益にしておりますが、どうしても公益ありきになってしまい、補正が多いということも聞いておりますので、その点も協議しながら進めて参りたいと思います。ただ、例会は公益性のある例会を計画していただきたいと考えております。

竹下　　：この予算書で見ると、そこまで公益性の比率はそんなにないから、そこまでこだわる必要はないのではないかと思います。要は、想いとして外部に見せたいのであれば、公益性というよりは公開としてやる方がよいと思います。公開例会にして、公益性を考えるのではなく、ＪＣを知ってもらうための場などにするのかは、また考えていってもらえればよいと思います。

常盤　　：予算の期間が２年間のものになっているので、そこを修正していただけたらと思います。

前田（大）：大変失礼いたしました。こちらの方は、２０１９年度１２月３１日までに修正させていただきたいと思います。他にご意見ございますか、なきようですので、２０１９年度予算（案）を閉じさせていただきたいと思います。

協議事項５：２０１９年度委員長基本方針　重野隆太くん

前田（大）：担当副理事長であります鈴吉美絵くん、よろしくお願いいたします。

鈴吉　　：委員長が公務のため不在となっておりますので、私の方で代わりに進めさせていただきたいと思います。１回目ですので、読ませていただきます。

　　　　　　朗読

　　　　　以上です。よろしくお願いいたします。

前田（大）：本日重野委員長が公務のため不在となっておりますので、答弁については鈴吉副理事長の方でお願いいたします。では、背景の方でご質問などありましたら、よろしくお願いいたします。

南郷　　；質問というか意見になるのですが、出だしが「社業を存続させるだけでも厳しい現代社会の中で～」と始まって、その後の文で「まずは、メンバー一人ひとりが経済人としての自覚を持ち～」となっているのですが、あまりつながっていないように見るのですがいかがでしょうか。

鈴吉　　：私もここを読んだときに何かつながらないなと思いましたので、ここは修正させていただきたいと思います。

田上　　：「影響力の低下が危ぶまれている～」というのが、総務としての問題提起かというと、そうではないような気がします。

鈴吉　　：またここは再考させていただきたいと思います。

井上　　：重野委員長は、なぜこの委員会が設置されたのか、自分の担いが何かを副理事長と相談してから書かれたらよいのではないかと思います。

鈴吉　　：総務というのは何のためにあるのかという質問はさせてもらっているのですが、また一緒に考えていきたいと思います。

前田（大）では、目的の部分で何かお気づきの点がございましたらよろしくお願いいたします。

橋　　　：鈴吉副理事長の方針をもう少し見られてから作られた方がよいのではないかと思います。大筋を副理事長が書かれ、それをさらに委員長が具体化していく中でズレがあるかと思いますので、よろしくお願いいたします。

鈴吉　　：先ほどからご指摘をいただいている通り、背景の方がまた変わると思いますので、井上監事、竹下顧問からいただいたご意見を参考に、縦につながるように再考させていただきたいと思います。

常盤　　：「情熱的な呼びかけ」など重野委員長らしさが出ているとは思いますけれど、全体的に何をするために何をするのかという部分が弱いので、もっと具体的に書いていただけたらと思います。

鈴吉　　：総会、例会の参加者をどのように増やしていくかについて委員長に問いかけた際に情熱的にという形で返ってきたので、彼の性格上、ただ単に情報を流すのではなく熱い気持ちで呼びかけていくということではあると思うのですが、この点については彼らしさを残しつつ、きちんと皆さんに伝わるように書き直していきたいと思います。

前田（大）：それでは目的の部分は全体的に変わってくるということになると思います。そうなると結果の部分もまた大きく変わってくると思いますが、そのような認識でよろしいでしょうか。

鈴吉　　：はい。

前田（数）：今皆さんから多くのご指摘が出ました通り、意見も何かピントが合っていない感じで、目的に関しては理事長所信の内容がそのまま書いてあるような状態ですので、やはり副理事長と一緒に相談しながら書いてみられたらよいのではないかと思います。

鈴吉　　：ご指摘をいただいた通り、一緒にその場にいて相談しながら行う作業というものができていない状態ですので、今後は相談しながら進めていきたいと思います。

竹下　　：副理事長に意識していただきたいのは、委員長を指導する立場ではなくて導く立場だから、やらせるとか書かせるではなくて、どのように導いていくかをもっと考えていただけたらと思います。そのために、副理事長には自分で答えを持つようにこの方針を考えてもらっているから、オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを使い分けて、常にオープンではなく、２つを使い分けて委員長を導いてほしいと思います。委員長もやはりオープンだけでは考えにズレが出てくるから、副理事長の思っている方向に導いていくためにはクローズドが必要になるので、しっかりと答えをもちながら導いていってほしいと思います。

鈴吉　　：ご意見をしっかりと受け止めて委員長を導けるように、私自身勉強をしていきたいと思います。

藏元　　：今皆さんからご意見があったように、手法については抽象的であったり、文章の書き方によっては手法に見えたりとかがありますので、副理事長の方針に沿った形で、深く書いていただきたいと思います。

前田（大）：以上を持ちまして、重野隆太くんの基本方針は閉じさせていただきたいと思います。

協議事項６：２０１９年度基本方針、板元幸仁くんについて

前田（大）：担当副理事長であります木野田副理事長、よろしくお願いいたします。

木野田　：第１回目の事業計画になります。正副で出たご意見には対応させていただいております。よろしくお願いいたします。

板元　　：よろしくお願いいたします。スミマセン、私先ほどの質問でもあったように背景の締め方を勘違いしておりまして、安易に可能性という言葉を使用しているのですが、とりあえずは読ませていただきたいと思います。

　　　　　　朗読

橋　　　：背景２行目の「会員減少が進んでいるのも～」の「のも」という部分が話し言葉になっているかと思いますので、確認していただけたらと思います。また、その後ろに「広域には」という言葉があるのですが、この言葉が急に出てきていて、ＪＣのメンバーであれば広域が霧島・姶良・湧水とすぐに分かるのですが、外部の方が読まれたときに意味が分からないかもしれませんので、表現を変更していただけたらと思います。

板元　　：仰られる通りのように読めますので、修正をさせていただきたいと思います。

田上　　：現状から問題提起のところがつながりが弱いというか、必要性が薄いような気がしますので再考をしていただけたらと思います。

板元　　：スミマセン、もう一度訊いてもいいですか。この「成長できる可能性を秘めています」という箇所に対しての前段が弱いということですよね。

田上　　：可能性を秘めているという表現は変えられると思うのですけれども、何が成長できるのかという点が分かりにくいというのと、そもそも成長できる可能性があるという所が、本当に問題提起なのか、必要なのかという点が分かりにくいと思います。広域に２１万人の人がいることでどうなのかということが、ちょっとここでは分からない。現状ではあるけれども、次につながる現状分析ではないと思います。

板元　　：文章を再考させていただきます。

鈴吉　　：４行目の「次世代へ組織を繋げるように～」という文章はどのような意味で書かれていますか。

板元　　：委員会の担いとして拡大という部分も入っていますが、このまま拡大が上手くいかずに何もせずにいたら、会員の数が減少していって会自体の存続も危ぶまれると思ったので、この会を今後も続けていけるようにと思い書かせていただきました。

鈴吉　　：次世代に組織を繋げるようにと書くと、パッと見たときにただ組織が残ればいいだけなのかなという感じに捉えるのではないかと思います。ただ残すために拡大をするのではなく、何のために拡大をするのかという点を考えて書ければ、現状分析や問題提起になるのではないかと思います。

板元　　：副理事長と再考しながら、書かせていただきます。

井上　　：前に委員長が拡大は組織を残すためだけではないと言われていたので、その点を踏まえて書かれたらよいかと思います。また、前段が少し長いと思いますので、前段と後段が半分ずつくらいになるように考えて、広報や拡大の必要性を書いたら良い発見になるのではないかと思います。

板元　　：再考させてください。

前田（大）：私の方から一点だけ。この２１万人とは全人口のことを言っているのですか。

板元　　：姶良・霧島・湧水の総人口が２１万３，０００人くらいなので、約２０万人と書きました。

前田（大）：その中で、我々の年代層が何人いるかは分かっていますか。

板元　　：霧島市が20歳から40歳までの男女の人数が34,423名、姶良市が14,916名、湧水町がざっくりとではありますが、5,213名です。

前田（大）：そこまで分かっているのであれば、全人口よりは我々の年代を言ったほうが分かりやすくなると思いますし、理事長も先ほど所信が通りまして、拡大が１５名の３３％を目指していくということもありますので、もう少しフォーカスを当てて書かれたほうが、もっと分かりやすくなるのではないかと思いました。

板元　　：参考にさせていただきます。

前田（大）：つづいて、目的の方でご意見などございましたら、挙手にてお願いいたします。

盛田　　：「時間、媒体、情報収集方法、既読記事など」の意味を教えてください。

板元　　：我々が届けたいと考えるターゲットの人たちが、どのような媒体で情報収集をしているのか、またどういった記事を読む傾向にあるのかを調査し、我々がターゲットに情報を発信する際のデータになればと思い、このように書かせていただきました。

南郷　　：目的の上から３行目の「そして、」から始まる文章ですが、先ほどの顧問のご指摘から考えますと、始まりと終わりがつながらないように感じますので、ここはつながるように書いていただけたらより文章が読みやすくなるのではないかと思います。

板元　　：再考します。

田上　　：目的の上から２行目に、「年代別に調査して基礎を築き、」とありますが、基礎を築くというのが結果ではないかと思います。結果を書いた後に、下に具体的な手法が出てくるのではないかと思います。

板元　　；自分の理解力不足で申し訳ないのですが、もう一度教えていただけないでしょうか。

田上　　：手法の2行目、「年代別に調査して基礎を築き、」とあり、効果的に広報して参りますとありますが、効果的な広報に前の部分がつながってこないので、調査をすることでどのような基礎を築くかが結果だと思います。そして、それを受けてその下に具体的にやることを書くことで、効果的な広報につながっていくと思いますので、その方が流れ的にはよいのではないかと思います。

板元　　：参考にさせていただきます。

常盤　　：２段落目の７行目、「市民へ共感の輪を広げていくために」とありますが、本年度拡大を担当されている中で、文章に書かれているようなことはされていると思います。その上で、なぜできていないかという検証も出てきていると思いますので、２回目ということもありノウハウも持たれていると思いますので、もしあるのであればもっと具体的に踏み込んで書いていただき、みんなを巻き込む方法を書いていただければと思います。

板元　　：自分でもひっかかっている部分でもありましたので、再考させていただきます。

井上　　：２段落目は具体的に書かれてはいるのですが、整理されていない部分があり文章がまとまっていないように見えますので、整理して分かりやすく書いていただけたらもっと良くなるのではないかと思います。

板元　　：より分かりやすく文章を整理させていただきたいと思います。

前田（大）：では、結果の部分まで含めて、よろしくお願いいたします。

鈴吉　　：結果ではなく２段落目の中段のところなのですが、「また、市民へ共感の輪を広げていくために、レクリエーションやビジネスマッチングなど集い語り合える機会を提供し、相互の親交を深めて参ります」とありますが、私も２年前に拡大の担当をさせていただき、レクリエーションやビジネスマッチングなどを行ったのですが、それで終わってしまうパターンが多く、共感の輪を広げていくためにレクリエーションやビジネスマッチングをするのは少し違うのかなと思います。未来ビジョンにも書いてある通り、共感の輪を広げるとはどのような意味なのかを基本資料などを読んで理解していただき、もう少し修正をしていただけたらと思います。

板元　　：この部分に関しては、会員拡大を視野に入れた機会の提供ということで最後に書かせていただいたのですけれど、戦略を持ってやっていき、今年はやるだけでなくアフターフォローに力を入れてやっていきたいと考えておりますので、再考させていただきたいと思います。

前田（数）：確認ですが、基本方針ではなく事業計画ですよね。事業計画にしては、副理事長とさほど違いが見えてこないんですよね。効果的な広報についても、どのような広報が効果的なのかを具体的に書かないといけないと思います。どうしたら相手に伝わるのかなどを本当に掘り下げて具体的に書かないと、事業計画にはなってこないのではないかと思います。ブロックなどで事業計画を委員長が挙げているので、そういうものを参考にしていただきながら、事業計画でいくならもっと掘り下げて具体的に書いていただけたらと思います。

板元　　：広報に関しては、効果的な広報とは行政やメディア、関係業者と書いてはいるのですが、人に何か伝えるということを仕事としている人たちの知識を会員に伝えるための勉強の場を設けることで、広報がより効果的に伝わっていくのではないかと思います。拡大に関しては、どう伝えどう実践していくかを書いた方がいいというのは、まさにその通りだと思いますので、再考させていただきたいと思います。

竹下　　：認知度が低いから会員が減少をしているという根拠を教えてください。

板元　　：霧島青年会議所という団体を知らないから、そのような団体に入りたいと思えないということです。

竹下　　：では、みんなに質問です。霧島青年会議所と知って入ってきた人はこの中にいますか。

　　　　　　挙手なし

　　　　　こういうことです。知って入ってくる人なんてそんなにいないです。問題は認知度ではないです。背景が掴み取れていないですよ。やはりもう一度、なぜこの委員会が設置されたかを考えていただくことですね。背景がずれているから、中身の文章が全部ずれています。広報はあくまで手段であり工夫です。では、今年拡大が成功していないのは認知度が低いからですか、教えてください。

板元　　：私はそれもあると思っています。あとはメンバーの拡大に対する意識が薄いからです。

竹下　　：では、なぜ拡大に対して意識が薄いと思いますか。

板元　　：誰かがやってくれると思っているからです。

竹下　　：ではなぜ、誰かがやってくれると思っているのですか。

板元　　：拡大をするのが面倒くさいと思っているからです。私の主観ですけれども。

竹下　　：では、拡大を面倒くさいと思う原因は何ですか。

板元　　：拡大の声掛けをして、嫌な顔をされるのが嫌だからです。

竹下　　：声掛けをして嫌な顔をされるのが嫌だから拡大をしないという結論でいいですか。

板元　　：私はそう思っています。

竹下　　：断られるのが嫌だから拡大をしないというのは、本末転倒です。要は、今は拡大をするための拡大になっています。

板元　　：拡大をするための拡大の意味を教えてください。

竹下　　：要は、拡大を何のためにしないといけないのかを理解しないまま、拡大という言葉を使っている状態ですよね。だから、人をいれられない。本来の拡大の目的とは何ですか。

板元　　：組織の存続や、前に東井上委員長が言っていたのですが、人がたくさんいることによってより大きなことができるようになるということです。マンパワーというか。

竹下　　：組織の存続やマンパワーということでいいですか。

板元　　：私はそう考えています。

竹下　　：では、そこを改めないと、今年拡大が成功しない理由はそこだと思います。拡大は、組織の拡大やマンパワーがいるからするわけではないです。宗教的に言うと、こういう考えがいいから進めていくという考え。拡大とは増やすことではなく、拡げるということ。会員を入れることが拡大ということではなくて、霧島青年会議所の理念ややっていることを拡げていくことが第一です。それができていないから、いつまでたっても拡大が成功しない。だから考え方を、何のために拡大をしていくのか、何で人が増えていかないのかという原点を見つめ直したら背景が変わってくると思います。今話をした感じだと来年も拡大は成功しないと思いますので、副理事長はもっと委員長を導いてください。

板元　　：今のお話を聞いて少し疑問に思っているのですが、私が担当する委員会は広報という部分は背景には入ってこないということでしょうか。

竹下　　：入ってくるでしょう。

板元　　：今のお話が広報はあくまで手段だというお話だったと思うのですけれど。

竹下　　：だからそれをどのように拡大につなげていくのかという手段を書いたらいい。手法は背景には書いたらいけないけど、手法と手段の違いは分かりますか。やることは手法、手段とはやる準備。そこを間違えないように、言葉一つ一つの意味をしっかりと理解していけば、相手を説得するときに理解してもらえる。

藏元　　：竹下顧問や他の理事からもありましたが、なぜ拡大が必要なのかを私も委員長ともう一度話をしたいと思います。副理事長とも話をしながら、もう少し深堀りをしてほしいところもありますので、そこもまた話をさせていただけたらと思います。

前田（大）：では以上で、板元委員長の基本方針については閉じさせていただきます。

鈴吉　　　：延長動議

セコンド　田上、橋

藏元　　　：延長動議を可とするか。

　満場一致

藏元　　　：２３時３０分までの延長を可とする方

　満場一致

藏元　　　：それでは、２３時３０分まで延長とします。よろしくお願いいたします。

協議事項７：２０１９年度基本方針（案）盛田啓仁くん

前田（大）：担当副理事長であります田上副理事長、よろしくお願いいたします。

田上　　：盛田委員長の１回目の上程となっております。まず、正副でいただいたご意見を私の方で伝えられておりませんので、反映されておりません。申し訳ありません。内容については委員長から説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

盛田　　：皆さま、お疲れ様です。最初ですので、読ませていただきます。

　　　　　　朗読

　　　　　拙い文章ではございますが、忌憚なきご意見、ご質問、よろしくお願いいたします。

前田（大）：それでは背景の部分から、ご意見、ご質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。

橋　　　：一つだけ質問をさせてください。この背景を書くにあたって、調べたこと、話を聞きに行ったところがありましたら教えてください。

盛田　　：詳しくは憶えていないのですが、藏元次年度理事長の所信にありました地方創生、地域の発展、郷土の発展というワードを検索し、自分なりに調べました。どこからということは憶えていないのですが、色々なところから参考にさせていただきました。

橋　　　：まちづくりに関わる中で、地域の現状を、データもよいのですが、直にお伺いすると色々な情報や地域の現状が分かってきますので、ご検討いただけましたらと思います。

板元　　：都会に出ていく若者が郷土を愛していないという理由を教えてもらえませんか。

盛田　　：私の考えといたしましては、郷土を愛していないわけではなく、都会には若者文化を受け入れる魅力があるためだと思います。

板元　　：郷土を愛する心と地域の発展というテーマと都会に憧れる若者文化はかけ離れている…　この文章を読むとかけ離れているという表現が、前段の郷土を愛する心や地域の発展が若者の考え方とかけ離れていると私には読めるので、先ほどのようにお聞きしたのですが、少しここが唐突すぎるというか、つながってこないように思います。

盛田　　：よく言われる地域のアピール等も大事だとは思いますが、都会がそうであるように地方も若者を受け入れるというものが溢れていると若者も地方にいやすいかと思い、このように書かせていただきました。若者の意識を変えるだけではなく、地域にも新たな魅力づくりをすることができればと考えております。

鈴吉　　：背景の最後のほうに、誰もが夢を描けるまちづくりという言葉が書かれております。もちろん、若者を対象にして事業を行っていくという流れも分かるのですが、最後に「若者を受け入れる環境づくりが必要です」と書いてしまうと、若者だけをターゲットにした地域づくりという印象になってしまうのではないかと思います。ここはもう少し表現方法を変えたほうがよいのではないかと思います。

盛田　　：再考させていただきたいと思います。

板元　　：質問ですが、盛田委員長が考える若者文化について教えてください。

盛田　　：私のイメージとしては、流行りものといいますか、そのようなものに触れる機会、場所というものが地方には乏しいと感じます。それを私どもが作るというのは難しいですが、できる限りのことをしていくことができればと思います。

板元　　：もう一つ質問ですが、そのようなものが乏しいと思われるこの地域に、若者を受け入れる環境がないと盛田委員長は感じますか。

盛田　　：私はこのまちにずっといるのですが、都会に対する憧れというものはありましたし、若者が求めるという魅力は、やはり煌びやかな世界にあるのではないかと思います。

板元　　：そうであれば、今回の事業は相当スケールが大きなものになってきそうな気がするのですが、煌びやかなものを作り、若者を受け入れる環境を作ることが必要となりますと、その点をどのようにお考えか教えてください。

盛田　　：大きなことを言っているようですが、実際に若者を受け入れる環境づくりというものは、今ある地域の魅力だけではなく、新しい魅力の発掘というものにつなげていくことができたらと考えております。

板元　　：そうであれば、背景の最後の文章はそのようなものが必要ですと締めくくったほうが、より伝わるのではないかと思います。

盛田　　：参考にさせていただきます。

前田（大）：続いて目的の部分、ご意見、ご質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

木野田　：正副での指摘が反映されていないので指摘しようがないのですが、全体的に書き方が途中から、～のために、～をする。　という書き方ではなくなってきているのでその点を再考していただけたらと思います。

盛田　　：自分も読みながら違和感がありましたので、修正させていただきます。

前田（大）：それでは、結果まで踏まえましてご意見、ご指摘等よろしくお願いいたします。

井上　　：背景等も含めてですが、盛田委員長の中で、若者が地域にいられる環境、都会の魅力等、具体的に若者は何に憧れているとイメージがありますか。

盛田　　：若者が都会に憧れる理由といたしまして、まず自分がなりたい職業がこの地域にある、自分が欲しいものがそこにある、流行りものがそこにある等、地方にないものが溢れていると、主観ではありますがそう考えます。

井上　　：郷土愛については、具体的にどのようなものだと思いますか。

盛田　　：私が考える郷土愛とは、自分の地元・地域を想う気持ちだと思います。

井上　　：そうであれば、今の盛田委員長が持っているイメージと郷土を想う心が必要だということを一度整理してみて、都会にあって地方にないものが地方にあればそれが解決できるのかを郷土愛というキーワード持って、若者を受け入れる環境づくりについて副理事長に相談していただけたらと思います。個人的には、地方が都会のようになればいいのかといえば、そうではないような気はしています。そのキーワードが郷土愛ではないかとも思っています。そこをきちんと確立してから進めていったらよいのではないかと思います。

盛田　　：地域の魅力や特色といったものを伸ばしていき、それがその地域ならではの魅力になると思いますので、そのような事業を構築していきたいと思います。

常盤　　：若者が全員都会に憧れているかと言えばそうでもないと思いますし、仕事がないから都会に行くとこともあると思いますので、その点については前に顧問が言われたように政治的な部分もあると思いますし、受け入れる環境づくりとはそちらの方になってくるのではないかと思います。副理事長はその点を基本方針の方では書かれておりますので、副理事長が書かれているものをもう一度読んでいただき、その内容を具現化するようにしていただけたらと思います。やりたいことがすごく出てきているのは良いのですが、少しズレてきているような気もしますので、その点を注意していただけたらと思います。

盛田　　：副理事長と相談しながら修正させていただきたいと思います。

前田（数）：今回書かれているのはまだ事業計画ではなく方針なのではないかと思います。背景が変わるとまた目的も変わってくると思いますが、まずはターゲットをきちんと絞っていただき、どのような事業をするのか、どのような効果が生まれるのかということをしっかりと書いていただけたらと思います。事業計画となると、この中ですべて事業が決まるということになりますので、そのような意味ではまだ事業計画ではなく方針なのではないかと思います。そこをもっと深く、どのような目的でどのような事業を行うかを書いていただいた方が、事業計画としてはよいのではないかと思います。

盛田　　：参考にさせていただき、修正させていただきたいと思います。

竹下　　：質問ですが、国がかかげる地方創生とはどのようなことを謳っているのかについて教えてください。

盛田　　：この方針を書いたときには調べて勉強したのですが、現在忘れてしまっております。

竹下　　：ここを理解していないと進めないですよね。田上副理事長も書いていますが、労働力人口の流出は悪いことではない。ではなぜ国はそれを止めようとしているのか、その理由は分かりますか。

盛田　　：分かりません。

竹下　　：国が何を解決したいかというと、人口減少の問題を解決したいと考えています。人口減少の大きな要因としては、都市部で働いている人たちが婚期が遅れて子供を産まないという現状が出てきています。それを打破するために、地域の中で解決していく仕組み、流出させないという仕組みを考えていくことが地域創生です。そういった意味で、田上副理事長は労働力人口の流出に歯止めがかかっていないと書いています。ここで一番解決すべきは、この少子化問題をどのように改善していくかということです。地方創生がなぜできたのかという意義を理解すれば、若者を都会に行かせないという発想にはならないと思います。本当は、子供がいっぱい生まれるという環境を作るのが一番いいと思います。人口を増やす政策として地方創生があります。そこを忘れずに、国の政策は何のために行っているのかを意識して、きちんと調べて理解するようにしてください。

盛田　　：しっかりと調べて、基本方針に反映させていただきたいと思います。

藏元　　：所信で大項目を掲げさせていただき、担当副理事長が方向性を示す方針を書いていただくという中で、その方向に向かって書かないと、委員長の考えや想いだけでは中々事業としては成り立たないということもありますので、そこはまた副理事長の方針を見ながら、相談をしながら進めていっていただけたらと思います。

盛田　　：参考にさせていただき、またそのようにさせていただきたいと思います。

前田（大）：では以上で盛田委員長の基本方針を閉じさせていただきます。

協議事項８：年間事業計画（案）について

前田（大）：よろしくお願いいたします。上程させていただいておりますが、所信が通りましたので委員会名など大方決まっていきます。また予算の時にもご意見あった通り、顧問のご意見も反映させながら進めていきます。委員長の皆様方には委員会名を今仮で記載しておりますので、変更等ありましたらまた教えていただけたらと思います。舞鶴鍋が抜けている形で、現在は出さしていただいております。総務に広報が入っている点につきましては、修正させていただきたいと思います。

藏元　　：この年間事業計画につきましては、共通事項や実施時期、例会などについてはこちらで入れますので、実際にする事業などは各委員会で内容も含めて記載して次回の正副に挙げていただけたらと思います

前田（数）：次年度理事研修の取り扱いはどうされますか。

藏元　　：そちらについては正副で話をさせていただき、理事会に挙げさせていただきたいと思います。

前田（数）クリスマス家族会については。

藏元　　：そちらも含めて執行部の方で話をさせていただき、報告をさせていただきたいと思います。

前田（大）：では以上で、こちらの方を閉じさせていただきます。報告・連絡に関しましては閉会後させていただきたいと思います。

前田（大）：それでは皆様、服装、姿勢を正してください。監事講評、井上正樹くん。

井上　　：第３回目の次年度理事会ということで、２０１９年度理事長所信が無事審議を可決されこと、おめでとうございます。これで２０１９年度の向かう方向が決まったということで、理事長所信が通ったということは、理事長はもう答えを出している、全ての委員会の担い、やることに関して地図を広げてここに宝があるよと教えているようなものなので、それを各委員長が答えはどこにあるのかを勉強しながら探して、その宝を見つけにいくような状態なのかなと思います。副理事長さんは今回２回目で、特に自分の方針を書きながら委員長を見るので、きつい時期だと思います。私も１回しか副理事長は経験したことはありませんが、そして今年のやり方もさらにレベルが上がって非常にきついことがとは思いますが、私自身も分からないことがたくさんありますし、この理事会の中で多くの意見が出てその中で学ぶこともやはりありますので、そこは冒頭に竹下顧問の挨拶でもありましたが、やはり分からないことはみんなで分かる状態にして、２０１９年が始まったときにみんなが理解した上で、全てが明確になった上で、理事長が広げている宝の地図の宝を見つけて、このまちの課題を解決していけるような良い事業を行うことができたらと思います。良い事業を作るために、みんなで一緒に勉強し、時間をかけて、来年良い１年が迎えられるように進めていければと思います。本日も長い時間でしたが、お疲れ様でした。

前田（大）：監事、常盤大和くん。

常盤　　：皆さん、お疲れ様です。第３回ということで、理事長所信が無事可決されました。組織図の方も今日確定したということで、これからは次年度の動きというものもできると思います。全てにおいて早め早めに取り掛かることで来年度に向けての準備ができますので、副理事長は委員長を導きながら進めていただけたらと思います。この時期は、本年度の事業は終わっていますが、まだ来年に引き継ぐための報告を作るため雑に扱える時期ではございませんので、本年度の活動も忘れることなく、その中で次年度の役割も果たしていただけたらと思います。理事長は所信が通りましたので、これからは副理事長、委員長に落とし込むという作業に時間を使っていただき、来年は監事ではなく竹下監事は顧問となりますので、アドバイスをたくさんいただけると思いますので、副理事長の皆さんも新しく変わって大変難しくなっているとは思いますが、正直私たち監事も中々答えというものを持っているわけではありませんので、そこは竹下顧問からたくさんの情報をいただき、来年につなげるためにも色々活用していただけたらと思います。これから副理事長、委員長ということで１１月いっぱいで通さなければいけないということになります。１週間ズレました。本年度に迷惑をかけていると思いますので、この時期は目を瞑りますが、来年度以降はスケジュールがズレることのないように、執行部、正副の方でしっかりとしていただいてなぜその日に決めたということを考えていただいて、簡単に日にちを移せないように責任を持ってしていただけたらと思います。最近、嘔吐下痢、インフルエンザも流行っています。この時期に体調を崩してしまうと大変なことになってしまいますので、体調管理には気を付けて、本年２か月を有意義に過ごしていただけたらと思います。以上で監事講評に代えさせていただきます。ありがとうございました。

次回開催

平成３０年１１月７日　　第４回次年度正副理事長会議

平成３０年１１月１４日　第４回次年度理事会

１７．閉会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　板元　幸仁　君

議長・理事長（代表理事）　　　　藏元　国明　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　田上　俊介　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　盛田　哲仁　　　　　　　　　㊞

監　　　　　　　　　事　　　　　常盤　大和　　　　　　　　　㊞